

対テロ戦参加

〔シンソン大治明子〕 イラクやアフガニスタンでの対テロ戦争に従軍した米陸軍兵の昨年の自殺率がイラク戦争前と比べて倍増し、ベトナム戦争以来、初めて一般の米国民の自殺率を上回ったことが分かった。今年の自殺件数は「調査中」も含めると既に91件で、過去最悪となった昨年の143件を上回る見通し。戦争の長期化で米兵の6人に1人が3回以上従軍しており、背景には過剰展開による米軍の疲弊があると指摘されている。

(8面)関連記事、(9面)連載「トロルの戦い米国」

年の自殺率（人口10万人あたりの自殺者数）は20・2人で、イラク戦争前の92年（9・8人）から倍増している。兵士と同世代（20～34歳）の米国民の自殺率は19・5人（5年統計・米陸軍修正値）で、この割合を上回ったのは「ベトナム戦争以来」（米陸軍）という。昨年の自殺は、今年1月時点の集計では128件だったが、その

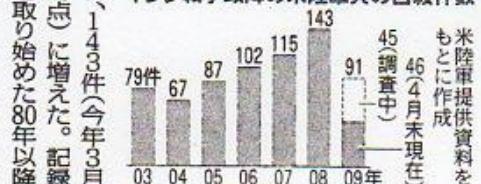
イラク

長期従軍で疲弊

米兵自殺率倍增

後「調査中」とされた
ケースの大半が確認さ

イラク戦争以降の米陸軍兵の自殺性数



既に4月末までに46件が確認され、45件が査定となっている。戦争の長期化で陸軍は本来12方月の従軍期間を15方月に延長。除隊希望者には一年前からの延期を命じるなどして兵員不足を補った。この結果、米軍全体の4割にあたる約70万人が2回以上従軍している。キアレリ陸軍副参謀

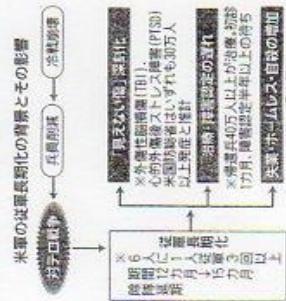
謀長は今年3月、連邦議会で「陸軍はストレスにさらされ、疲弊している」と指摘。兵士の従軍長期化が「自殺の大きな要因」と述べた。

米陸軍の調査によると、繰り返し配備された米兵は、1回だけの兵士より心的外傷後ストレス障害(PTSD)を発症する割合が5割高くなる。

終わらない従軍兵士に重

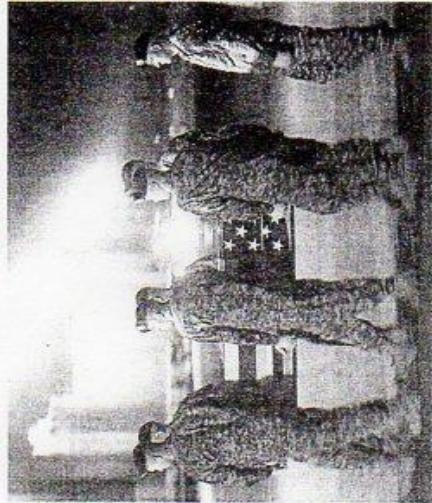
戦略ミスをいかす

畢竟しむる要はいか? 後に「聖廟」修復を請うて、アーヴィングは「アーヴィングの手による」聖廟の再建を実現した。アーヴィングは、この聖廟の再建によって、歴史的記憶を守るために、その歴史的意義を強調した。アーヴィングは、「聖廟は21世紀の敵など止」の言葉を引用した。



終わらない従軍兵士に重用され、本部隊長は今月一日の会合で「本軍ではこれまで零細な手配から大きな問題だったが、バグダッドへの米軍参謀官を名目付けて、彼の米兵部隊を攻撃して、それを防ぐことを目的とした事件を要請しての宣撃だ」と述べた。シリア軍はイラクへの進軍は3回目で、前回は露営場を襲撃したが、が、マレン准將は質問に答える間に露営場を襲撃する準備のストレスがあると認めたのだ。

兵士の自殺事件の背景には、今回の戦争特有の状況があらわす、必ずしもそのもののはじめにストレスだ。兵士は常に底線的努力がいる。しかし、それが三段階で、**①**「自分自身を守るために、自分自身を犠牲にする」、**②**「自分自身を犠牲にするために、自分自身を犠牲にする」、**③**「自分自身を犠牲にするために、自分自身を犠牲にする」の構造である。



33日、米アラウェア州の空軍基地に到着した、バグダッドでの米兵銃乱射事件で犠牲となった兵士のひづき=ロイター

病院に殺到する帰還兵

病院に殺到する帰還兵

豊潤はる要にむじア・豊潤が
を申請するが、こしてか努力月付
だされている。同者に附属する申
請は00年当請求7万件だったが、
イラク戦争開始翌年の01年には47
万件、昨年は25万件に膨れ上る

毎月1万人のペースで初診患者